

科 目	成人看護概論				
時間数	1 単位30時間	授業方法	講義	授業時期	1 年
講師名	毛利智恵美				
実務経験	看護師(医療機関)				
ねらい	「おとな」になる事やその生活について学ぶことは、学生の皆さんにとって、これから自身が向かっていく将来の姿であり、看護師として求められる「他者の理解」を考える上で、とらえやすいテーマではないだろうか。 ここでは、家庭や社会において中核的役割を果たす成人の健康問題に対する看護アプローチの基本や、多様な健康状態にある対象への看護を学ぶことをとおして、革めて「健康」について考える。 少子超高齢社会を背景に、地域包括ケアシステムを目指していかなければならない現代社会において、これから看護を目指す皆さんと、対象者や家族、誰もが望む健康な生活を実現するため、保健・医療・福祉の在り方や、看護の方向性を、共に考える機会にしたい。				
目 標	- 生涯発達の視点から『おとな』になることと、現代社会の＜生活・暮らし＞を理解する。 - 成人の健康行動を促す看護アプローチの基本を学ぶ。 - 看護にとっての「健康」の考え方を学ぶ。 - 健康状態に応じた看護を理解する。 - 地域包括ケアシステムと療養の場の移行に伴う看護を理解する。				
回	内 容				
1	ガイダンス 成人看護学のねらいと学習の進め方 1 章 生涯発達の視点から現代社会の様々な出来事に目を向け、『おとな』の生活を観る視点を持つ				
2	生涯発達の特徴と発達課題 成人の生活と健康(青年期・壮年・中年期・向老期)について考える				
3	2 章 A 1. 成人を取り巻く環境と生活の状況 人口からわかること <少子高齢化と課題>				
4	2. 成人の健康の状況 生と死の動向 平均寿命と健康寿命 成人病から生活習慣病へ				
5	B1. 保健・医療・福祉に関わる施策 B2.保健・医療・福祉システムの連携				
6	3 章 成人への看護アプローチの基本				
7	A 1. 大人の健康行動 2. 行動変容を促進する看護アプローチ 行動変容と自己効力感・エンパワメント				
8	B 症状マネジメント C. 健康問題を持つ大人と看護師の人間関係				
9	F. 看護マネジメントとチームアプローチ				
10	G. 看護実践における倫理的判断 H. 意思決定支援と看護師の役割				
11	成人の健康レベルや状態に対応した看護				
12	4 章 ヘルスプロモーション(健康増進)と看護				
13	5 章 健康をおびやかす要因と看護 「健康の定義」と健康バランス				
14	5 章 健康をおびやかす要因と看護 ストレスコーピングと SOC(sense of coherence)				
15	6 章 健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護 (急性期にある人の看護)				
16	7 章 慢性病と共に生きる人を支える看護 (慢性(期)病とともに生きる人を支える看護)				
17	8 章 障害がある人の生活とリハビリテーション(障害がある人・急性期・回復期のリハビリテーション)				
18	9 章・10 章 人生の最期のときを支える看護 (終末期にある人の看護)				
19	終講テスト				
評価方法	終講試験受験資格: 時間数の 3 分の 2 以上の出席者とする。 評価 : 平素の学習への参加状況・課題の提出状況 及び 単元範囲の筆記試験の総合評価とする。 課題(レポート): 指示された書式で記述する。内容不足の場合は、助言の上、再提出を求める 筆記試験 : 60 点以上を及第点とする。				
教科書	成人看護学(1)成人看護学総論: 医学書院				